

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 三木 勉

印刷部数1万1500部
 (購読料は組合費のなかに含まれています)
 (年間購読料 千八百円)
 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

平和行進に参加してください

広島・長崎被爆75周年にあたる今年の原水爆禁止世界大会はオンライン開催となりましたが、平和行進は一部地域を除いて取組まれます。コロナ対策、熱中症対策を取りながら参加してください。

仲間が不払い 組合と一緒に借金確保法で救済

倒産放置で申請危うく

「一人だったら諦めていた」

昨年、杉並支部と中野支部の仲間が賃金の不払いに遭いましたが、その後、組合に相談し、支部の書記局が相手弁護士などへの交渉に動き、本部貸付部の佐藤正雄副主任書記、全建総連の長谷部康幸貸付部長の協力も得て、今年5月に借金確保法の適用を受けることができました。経過については杉並支部から報告してもらいました。

【杉並・書記・喜多正之通信員】2019年5月から6月にかけて、杉並支部の袴田信之さんと中野支部のAさんは、(株)松屋産業のマンション工事現場で日当の手間賃として働きましたが、1円もお金をもらえないうちに、会社が



喜多書記に相談する袴田さん(右)とAさん(左)

事実上の倒産に。弁護士までついて破産の申し立てをするといながら、手続きもせず放置され、このままでは借金確保法の申請も危ぶまれる事態になりました。

組合は管轄の横浜南労基署に連絡し、被害者とともに訪

目黒

4月は仕事が1日

改善されるまで給付を



「相談してよかった」と袴田さん

被害にあったらすぐに相談
 袴田さんは「最初、倒産と聞いたときに半分諦めていました。その後もいろんなやり

とりのなかで諦める気持ちでしたが、組合と一緒に取り組んだから頑張れました。一人だったら、途中でやめていたでしょう。組合に相談して本当によかった」と語っています。同時に袴田さんは「他の業者も被害者はいたであろうけれどどうなっているのか」と心配します。

今年の5月には、事件の現場を袴田さんに紹介した人物から「仕事をやらなないか」との誘いの電話があったこと。「私が不払いにあったこと

「相談してよかった」と袴田さん

「私が不払いにあったこと

「私が不払いにあったこと

「私が不払いにあったこと



これからも申請相談会を続ける目黒支部

目黒支部は7月12日、新型コロナウイルス対策の事業者支援金等申請相談会を開催しました。支部と星見てい子都議事務所(共産)との共同開催で、5月31日にも開催し、今回が2回目です。相談には支部の佐藤豊副委員長と書記、世田谷税経センターの税理士があたりました。

相談は組合員以外の区民にも案内され、この日は組合員が8人、区民が4人訪れました。相談の内訳は東京都感染

目黒支部は7月12日、新型コロナウイルス対策の事業者支援金等申請相談会を開催しました。支部と星見てい子都議事務所(共産)との共同開催で、5月31日にも開催し、今回が2回目です。相談には支部の佐藤豊副委員長と書記、世田谷税経センターの税理士があたりました。

相談は組合員以外の区民にも案内され、この日は組合員が8人、区民が4人訪れました。相談の内訳は東京都感染

事業者支援相談会で切実な声あがる

【ウィズコロナ】といわれ、これから先、新型コロナウイルスと共生する社会となる。今月発行する「建設労働のひろば」115号掲載の斎藤幸平大阪府立大学准教授の論考では、コロナ禍と環境危機がもたらす社会として、「国家資本主義」「国家社会主義」「野蠻」「相互扶助」の4つのモデルを提示している。パンデミックを乗り越えるために、どのような社会を展望すべきなのか。

【コロナ禍では医療・介護従事者、スーパーや物流の労働者など、生活を支えてきたエッセンシャルワーカーがクローズアップされた。建設産業でも感染の危険と隣り合わせで働かざるを得ない仲間が、住環境や社会インフラを支えている。技能実習生の来日が困難になり農産物の収穫ができないうち、外国人労働なしに産業が維持できない状況も浮き彫りにされた。

テレワークでは成り立たない仕事こそが、私たちの生存にとって重要であるし、その仕事を支える労働者が不足していることも明らかだ。たとえコロナ禍から脱してもエッセンシャルワーカーは尊重されるべきだろう。そうした流れが、国家権力に依存せず、市民的な連帯を基礎とした社会を築くことにつながるのではではないか。斎藤准教授の論考は示唆に富む。多くの仲間が一読を勧めたい。